

特集

# 農村—むら—の魅力

Village

～農業・農村の多彩な魅力を発見～



鹿児島県の農業は、温暖な気候、広大な畑地などの特性を生かして、畜産、園芸を中心として農業生産が伸びています。

また、農村はそこに暮らす人々の営みによって守られたきれいな水や田園の原風景、固有の伝統・文化など都市部とは異なる潤いや安らぎの空間がたくさん残っています。

## 農業・農村は、多くの役割 —多面的な機能— を持っています。

農業・農村は、私たちが生きていく

ために必要となる米や野菜などの食料の生産の場としての大きな役割を持っています。現在の日本の食料自給率は、主要先進国の中でも最低水準で、食料の多くを輸入に頼っています。しかしながら、今後、世界人口の増加等に伴う消費の拡大が予想されることから、輸入に依存しすぎない、安定的な農産物の生産を通じて食料を供給していくことが、将来の日本の食を支えることとなります。

そして、農業・農村の役割は「食」

を支えることだけではありません。

日本の地域社会は、長い間、稲作中心の発展を遂げてきました。このため、地域の自然・生活・文化は農業の歴史と深く関わっています。それは過去の話ではなく、現在の社会においても同様です。しかしながら、そのさまざまな役割の価値は、一般的にわかりにくい面があります。私たちは、農業・農村が自然や社会の仕組みの中で果たしている多くの役割を知り、より豊かな関係を築くことで、人間的な心の豊かさを得ることができます。

## —鹿児島県の現状—

鹿児島県は、離島や中山間地域を多く抱えています。中山間地域は、傾斜地が多くまとまった耕地が少ないことから、平地より生産条件に恵まれず、

生活者にとっても多様な役割を果たしています。

農業生産性が低い農業構造となっており、農業・農村を維持するためには多くの労力を必要とします。また、農村は都市部に比べると高齢化や人口減少が著しく、集落機能の低下や地域間格差の拡大などが懸念されています。しかし、河川の上流に位置する中山間地域の農地は、水源かん養や国土保全機能などを担っており、周辺住民や都市

農業・農村を活気づけることは、ふるさとの生活や自然を守ることにつながります。このため、県では平成19年度から共生・協働の農村づくりを目指して地域住民が共同で農地や農村環境を守る活動を「水土里サークル活動」の愛称で、展開しています。

水土里サークル活動：国の交付金を活用して、地域の共同活動で農地や農業用施設を保全する活動の鹿児島県における愛称。これまでに県内497地域において、地域ぐるみの活動が展開されています。



日置市の日吉地域に伝わるお田植え祭り「せつぺとべ」

泥にまみれて、唄を謡いながら勢いよく飛び跳ね、今年1年の豊作を祈願する。

※「せつぺとべ」は「精一杯跳べ」の意味。